

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育目標・学校評価	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>◇保護者、生徒ともに概ね昨年度より向上した項目が多くなっている。</p> <p>◇昨年度の「自己評価・学校関係者評価」により課題に挙がっていた5項目について、今年度の結果を以下のように分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<教職員>項目16「学校の教師は、子どもが相談したときには、親切に応じてくれる」では、昨年度保護者回答ABが68.9%から75.8%へ、生徒回答では63.6%から76.6%へ大幅に向上した。全職員が教育相談的な観点での早めの対応、また学年、教科担任等チームとして問題を共有し解決策を講じていることが評価につながったと考えられる。 ・<学習指導>項目18「学校はテストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」では、保護者回答ABが46.6%から56.7%へ、生徒回答では51.2%から61.8%へと共に10%以上向上している。理解は進んでいるが数値的にはまだ高いとはいえ、今後も取組を継続する必要がある。 ・<学校行事>項目39「学校は、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している」では、保護者回答ABが41.6%から66.2%、生徒回答でも57.4%から74.7%へと大幅に向上している。教職員の中でのボランティア担当の位置づけをはっきりさせた効果と、生徒自身の意識の向上がマッチした結果と考える。地域からの働きかけも増え、精選も課題である。 ・<学校独自項目B>項目49「学校を取り巻く地域の環境や人材が、教育活動の中によく取り入れられている」では、保護者回答ABが45.3%から59.9%、生徒回答が53.7%から67.1%へと大幅に向上した。PTAとの協同事業、またキャリア教育の講演会等で、卒業生をはじめ、地元の人材を積極的に招いている効果が上がっている。今後本校が注力する「ふるさと教育」の展開に向け、一層の工夫が期待される。 ・<学校独自項目B>項目50「地域の中の学校として、地域に評価されるような教育活動や行事を行っている」では、保護者回答ABが59.0%から69.4%へ、生徒回答は64.2%から72.8%へと向上している。項目39、49の取組みに加え、生徒による中学校へのミニ教育実習や自治体等が主催するイベントや企画などへの積極的な参加が増加し、本校の貢献度が認知され始めている結果である。また今年度より「総合的な学習の時間」のテーマとして「ふるさとを知ろう」という単元を設け生徒の意識がふるさとに向いてきた効果もある。 ・以上より昨年来課題として取り組んだ結果、成果を上げ始めている。また保護者、生徒ともに意義も理解されていると考えられるので、今後も継続し、学校からの発信にも重点を置いて取り組みたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科教育・進路指導の充実 ◇人間教育の充実（開かれた学校づくり） ◇職員の「働き方改革」の推進	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	◇職員会議や各種委員会、教科研究会等での適切な現状把握と共通理解に基づく改善と実践 ◇分掌内の仕事分担の効率化と、分掌間の連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業及び諸行事の公開。SSHや総合的な学習の時間の取組・発表等の公開。 (2) 授業研究会を始めとする職員研修。 (3) 保護者懇談会及び学年懇談会。小中学校との連携。	(1) 生徒、教員による授業アンケート・評価。 (2) 新聞等記事掲載数や地域の評価と期待。 (3) 学校、家庭での学習習慣の確立。生徒の学習に対する興味・関心の高まり。教員の自己評価、授業評価。	

(4) SSH事業における他校種との連携。 (5) 行事の精選と内容の充実 (6) ノー残業デーの推進		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) PTA総会、学校評議員会、SSH運営指導委員会、岐阜県ふるさと教育週間、PTA高校見学会等での授業公開。文化祭・体育祭の一般公開。 (2) 新聞、市広報等への記事の提供。 (3) 授業アンケートの実施。他教科の授業参観や教員の相互評価の実施。学校行事、教育相談、情報教育、ホームルーム運営に関する校内研修会の実施。 (4) 各分掌主任による連絡会の定期実施。	① 保護者や地域からの学校への関心や期待。生徒の満足度や進路結果。 ② 校内外で活躍する生徒の姿。 ③ 基礎学力の定着 ④ 職員の時間外勤務時間の削減	A (B) C D A B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○学校の教育活動や生徒の様子について、中学校や地域の方々、保護者等への発信を増やした。 ○授業規律が確立しアクティブラーニングの手法等により、互いに協力し合い学習しており、その成果が期待できる。 ○教職員が熱心に研修に参加し授業改善を図り、高大接続等の教育状況を共通理解し教育活動全体に生かすよう努めている。 ○LHRの改善を図り、生徒自身による課題発見、課題解決に向けた取組を通じ、社会性をもち互いに協力する態度を醸成することができた。 ○安全で安心して学べる学習環境が整っている。 ○ボランティア活動など、地域での活動の機会を増やした。 ▲学習の課題や小テストについて、生徒や教員の負担及び効果を見極め、適切な分量や方法を検討していく必要がある。 ▲「働き方改革」の観点から、職員の時間外勤務の縮減を図る。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科「課題研究」や普通科「総合的な学習の時間」などの本校の特長的な取組である探究学習についてさらに深化し、HPや報道を通して地域への理解を図るため広報活動を充実させる。 ・変化する教育状況や生徒の実状を踏まえ、目指す学校像・育成する生徒像に向かう共通理解を深め、その実現に向け授業をはじめとする教育活動全体の改善を図る。 ・さらに学校の魅力を外部に伝える努力を続ける。 ・高大接続改革をはじめ、予想を上回る変化に対応するため、教職員、生徒、保護者が情報を共有し、キャリア教育の一層の充実を図る。 ・「働き方改革」の観点から、職員の時間外勤務の縮減を図るため、課題や小テストの分量や方法の検討、会議の効率化、部活動の在り方等について検討していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月29日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通して、生き抜く力、人間性を高める教育方針に共感し、実践している授業の様子に感動した。そうした活動が徐々に周知され、恵那高校のイメージが変わってきていることを実感した。高等学校でもアピール力が必要な時代になってきている。 ・中学校へ配布している「恵那高ニュース」は、A3の大きさ、しかもカラー印刷で、たいへん目立ちインパクトがある。今後もそうした発信を続けてほしい。 ・教職員の働き方改革について、高校生が教師になりたいと思えるように、今後も推進してほしい。 ・世界や日本に羽ばたく人材、地域を支える人材の輩出を大切にしていることが伝わってきた。
